

## 東海・北陸ブロック

## 1.プログラム詳細

### 【日程】

#### <1日目>

13:30～13:45	(15)	<b>開会</b> ・主催者挨拶:内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全企画第一担当参事官補佐 中島 淳 ・来賓挨拶:福井県 安全環境部 副部長(県民安全)川野 学 ・講師、コーディネーター紹介
13:45～14:45	(60)	<b>講演</b> 「動機付けと交通安全活動 ～安全・安心のコミュニティ再生～」 自由学園 最高学部 講師 溝端 光雄
14:45～15:00	(15)	<b>休憩</b>
15:00～16:00	(60)	<b>講演</b> 「自転車の事故防止のために」 (一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之
16:00～16:15	(15)	<b>休憩</b>
16:15～16:45	(30)	<b>グループ別交流</b> (グループ討議での役割分担等)
16:45～17:00	(15)	<b>事務連絡等</b>

<2日目>

8:30～9:00	(30)	受付
9:00～9:30	(30)	活動実践発表 寸劇「免許返納」 福井県坂井市交通安全母の会
9:30～11:10	(100)	グループ討議 高齢歩行者に対する交通安全活動における課題と対応 高齢運転者に対する交通安全活動における課題と対応 シートベルト・チャイルドシートの啓発活動における課題と対応 家庭と地域の交通安全活動における課題と対応
11:10～11:45	(35)	グループ討議結果発表
11:45～11:55	(10)	講評(コーディネーター 石井征之先生)
11:55～12:00	(5)	主催者からの連絡事項：内閣府
12:00		閉会

## 2. 講義等の記録

### 【1日目】

#### 講演

### 「動機付けと交通安全活動」

自由学園 最高学部 講師 溝端 光雄

皆さん、こんにちは 溝端です。突然ですが皆さん「動機づけ」ってわかりますか。走って、ころんで足をすりむいて、痛いと感じます。そうすると次からは転ばないようにしようと思いますよね。これを「動機づけ」といいます。交通事故も同じなのですね。先ほど内閣府の方から池袋での高齢者が運転した悲惨な交通事故の話がありました。これも同様ですね。マスコミによると奥様の足が悪いとかで病院に向かっている途中だったようですね。できたら少し考えて欲しかったですね。例えばタクシーで行くとか。少しかどうかわかりませんが、動機づけが足らなかったということですね。

今日は高齢者をメインテーマで話してまいります子どもや自転車のことを取りまぜながら、人の一生ということを考えて動機づけの話と絡ませていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

まずこのパワーポイントをご覧ください。神戸三宮でバスが暴走し多数の死傷者が出ました。バスの運転手は64歳のプロドライバーです。今はバスやタクシー、トラック業界でも若い人がいなくなったのでどんどん高齢化しています。困ってしまいますね。老いを防ぐにはどうするか、やはり気づいてもらって日ごろの日常生活の中で意識してそれを取り入れてもらう。

この写真もそうです。この人は、線路の中に車で進入してしまった。とっても危険ですね。本来、線路は電車が走る場所ですから車が入ってはいけませんね。これは認知症が原因です。ですから、多様な心身の加齢変化を理解する、プロセスを理解する、これは大事なことです。「動機づけ」の最初は、まず知ることからです。知らなかったら動機づけもなにもありません。あれっ。おかしいな？ 老けたかな？ということですよ。

さて、今日のトピックです。ご覧のようにまず全国の事故の状況を簡単にレビューさせていただき、動機づけと交通安全のお話をさせていただき、次は「生涯発達」ですね。「加齢変化」と書きましても、赤ちゃんからスーパー高齢者までの話を交通安全と絡ませてお話しします。高齢者も前期高齢者、後期高齢者、スーパー高齢者など本当は細かく分けなければだめなのですが時間もないので「高齢者」一本で進めます。そして最後は「活老社会」という話でまとめたいと思っております。

まずはこのグラフです。これは交通事故の全国の死者数です。1948年からずっと1年ごと区分して2018年までを表示しました。2018年の死者数は3,532人。先ほど内閣府の方より説明がありましたね。徐々に高齢者の割合が伸びてきているのです。減っていないのですね。皆さん減っていない原因が何なのかわかります？ そうです高齢者が増加したからです。ですから、来年はこれを上回る。皆さんが頑張って活動していただいて良くて横ばい。もしかしたらもっと上がる。それを心にいつも思っていていただいて地域でご指導いただくことが大切です。

先ほど運転サポカーという話がありました。運転サポカーは高齢者対策だけではありませんね。技術の進歩に応じた高齢者対策で免許返納の話などもあります。皆さん、「地域包括

支援センター」ご存知ですか。そこでは免許返納の説得をしていますね。運転が心配になっても家族が本人に言えない場合は包括センターに一度相談してください。プロの看護師さんが本人に延々と説得してくれます。しかし話を聞かない人がいる。家に帰ってこられたら皆さん方がまた頑張って説得しなければならない話になるわけですね。要はそういうことです。

今年の死者数は上半期、6月までに1,418名です。このペースでいくと下回りそうですね。例年、11月、12月は増加しますが、できれば下回って欲しいものです。高齢者の死亡割合は上半期6カ月間で55.7から1%上がって56.5%に上がっています。

この図は去年の死者数3,532人のうち年齢層別、状態別で区分したグラフです。右が使用している移動手段。下段が年齢で4歳以下から85歳以上までです。死者数を柱のようなグラフであらわしたものです。誰がどの状態で亡くなっているかすぐわかりますね。「歩行中」は圧倒的に高齢者ですね。子どもの方にもあります。小学校三、四年生ぐらいですね。原因は子どもではなく親ですね。子どもたちには責任は多分ないと思います。ここは高齢ドライバーです。自動車の中でもやはり高齢ドライバーは圧倒的に多いですね。次に20歳代の若者。バイク乗りたてで、自分の運転能力はさておき、ハイスピードで急カーブを曲がってガードレールと衝突してしまう。この「自動車」の中での4歳以下。これは？ そうチャイルドシートですね。チャイルドシートは身長が140cm以下でないとい効果がありません。お母さんやお父さんは忙しいと省略行為をしてしまう。これでいいやとかでやってしまう。運が悪いと大変なことになってしまうということです。

次の図は「高齢化率」です。高齢化率というのは県の人口に占める65歳以上の人口の割合です。福井県はどうですか。一番濃い色の県は？ 秋田県です。次いで山口県や島根県。高齢者が多いということです。次の図は今年の1月から5月までの5カ月間での高齢人口10万人当たりの死者数です。一番多いのは徳島ですね。2番目が栃木県。この二つの図から言えるのは案外、高齢者数が多いところでも死者数が高くないという話が成り立ちますね。逆に言えば行政や皆さんが頑張っているのかもしれないかもしれません。とにかくボランティア活動など草の根的に活動していただいて、数字を下げている可能性が考えられるわけです。

では次に「動機づけ」の話をさせていただきます。これはローゼンバーグという人がつくった自尊心、自尊感情を測定するための質問票です。質問項目が10項目並んでいます。「当てはまらない」から「当てはまる」まで5段階あり1点から5点まであります。

2、5、6、8、9番目の項目点数は、わざと逆にしてあります。なぜだかわかりますか？ そうです。省略行為の働く人は、全部1番に丸をするからです。だから、わざと逆にして集計している。つまり全部に自信がある方は10項目に5を掛けるから50点になる。次の表が結果です。ブルーの線が男性、ピンクの線が女性。どう見えます？ 男性の方が自尊感情が少し高いですね。こういう状況になっている。高いところをマークしていくと子どもと高齢者が高いですね。年をとって高くなるのは血糖値と血圧と自尊心。こうやって覚えてください（笑声）

子ども高い理由と高齢者が高い理由について少し考えてみましょう。まず子どもですがどなたかわかりますか？ そうです「わがまま」や「社会性がない」「無関心・無知」など心身機能の未熟さが原因ですね。それから集中力が当然もちません。幼稚園児は1分もたないですね。「はい先生の方、向いてください」。この時だけは見ている。話をしない時は横を向いている。お友達と話が始まる。この子たちをどうやって聞かせるか。やはり腕、技が要るのです。とにかく褒めながら、腐らせずに、ひたすら何回も言うこと、特に小学校の低学年、幼稚園児、これはもう繰り返し言わないと話になりませんね。ルールや安全の意識や知識を繰り返し楽しく教えること。まず興味を惹かせてください。「パンダに1つあって、人間に2つあるものは何？」皆さん、わかります？ これ園児にはすぐわかりますよ。答えは「ん」ですね。皆さん、ぴんときました？ とにかく子どもに興味を湧かせるのです。なぜなら

も何でもいいのです。とにかく楽しくやらないとだめですね。「右・左」なんて園児にはわからないですよ。「はい右手挙げて！ 左手挙げない！ 右手おろさない！」とか。そのようにして右と左を教え込みます。何回も何回も楽しませながら繰り返す。それをやらないと子どもは覚えませんね。とにかく楽しく、ゲーム感覚を持って教えることが大事ですね。

次は高齢者の高い理由は何だと思います？ 自尊心の高さ。ここに書いてあります「満たされぬプライド」です。社会経験を積んで会社を定年になった。さらに再就職を繰り返していくと、自分はまだやれる、自分は大丈夫。こうなってくると徐々に自尊心が上がってきます。定年の頃は最も高い。満たされぬプライドです。ここに過信が生まれるのです。高齢のドライバー。自分は40年間無事故無違反。こう言われたら皆さんどう返答します？ 「でも、明日はわからないよ」って言いますよね。「そうですか」なんて言ったらだめです。とにかく自分に火の粉がかかるようなことを言われるとプライドが高いからみんな否定する方向に働くのですね。注意されるのが嫌なのです。それから、交通安全に対しても拒否しますね。スピードを落としましょう。とんでもない、自分は時速100キロでコースを走っていたんだと。すぐそういうことになります。行き過ぎた行為がよく見受けられますね。暴言、暴行、暴走です。駅前で皆さん見たことはないですか？ JRの職員さんの首をつかんだり。自信が高過ぎるのですね。自信の高いのはいいのです。悪いことではない。しかし高過ぎるとまずいということです。高齢者には心身の変化がたくさんある。このことを頭に置いておかないと、またぼけてとか言いかねません。ぼけていない人にぼけていると言ったら、自尊心が非常に傷つきます。そしてパンチが飛んできます。皆さん、そこは上手にコントロールしていただかないといけません。

多様な褒め言葉を使って、上から目線を控えて、高齢者の立場に立ってお話をする。自尊心をくすぐるということです。そうしないと自尊心の高い人をコントロールできない。自分がへりくだって相手を立ててください。「先輩」「さん」いいですね。「おじいちゃん」これはだめです。例えばイベントの時には必ず名札をつけてあげてください。その名札を見て、お名前と呼んであげてください。人生の達人ですから敬意を表するのです。酸いも辛いもわかっていらっしゃるはずですから。それができないと説得はまず難しいですね。さん、先輩でも社長でも人生の達人と呼んでいただいてもいいです。こんな言葉をふんだんに入れることが説得のポイントです。運転をやめた後どうするかという話も必ず添えて言わないと。ただ運転を止めてくださいだけでは困ってしまうでしょう。セカンドオプションが必要です。

「傾聴・共感」と書きました。耳が不自由になるとひがみが出ます。高齢期75歳ぐらいになると老人性難聴になります。これは両方の耳が同時に聞こえなくなるのではなく必ずどちらからか始まる。目の白内障もどちらか片方から悪くなる、もう片方の耳で聞こうとする。ああ、この人、左が悪いのだなと皆さんきちんと見抜いてあげてください。

よく聞こえる方の耳で説得してあげないときちんと聞いてくれません。ひがんでいるとご家族の方が言われたら、まず補聴器を試してみられませんか？ と、一言添えていただくといいかもしれません。ひがみっぽくなって困るのは家族ですから。家庭訪問の時にちょっと言葉を添えていただく事故が1件減るかもしれないですね。

今まで説明してきた事はレオン・フェスティンガーという方が昔から言っていたことです。要するに「反発心」。例えば、自分は高齢ドライバーと自覚して安全運転を心がけている。すると皆さんが高齢ドライバーの事故が多いです。危ないから気をつけてとアドバイスします。それだけで高齢者はカチンとくるのです。誰もあなた自身のことを高齢ドライバーで危ないと言っていないのにカチンとくる。上手に言わないといけませんね。「承認欲求」。高齢者の場合はこれですね。自分を認めて欲しい。今まで人生を頑張ってきた。このことを認めて欲しいわけです。まず最初に認めるのです。最初から「高齢ドライバーは危ない」と始め

ると、それだけでももう聞いてくれません。

次です、「生涯発達と交通安全」。子どもの話も含めて進めていきます。これは時計のつもりですが、24時間を80歳という計算です。10歳が3時間となります。わかりますか？ この子は子役の五十嵐陽向くんです。ちょうど10歳です。ここ自尊心が高い、別名ギャング・エイジ。この世代は楽しませながら右、左、右、ゲームで教えてあげてください。他にもたくさんありますから皆さんいろいろ使ってください。次、もう10年たって20歳ですね。青年前期です。女優の橋本環奈さんですね。身体能力は大人並みにどんどん上がっていきます。そろそろ私は何になりたいとか、アイデンティティーが固まってきます。私は女優になりたい、私は野球選手になりたい、相撲取りになりたい、アナウンサーになりたい、いろいろあると思います。さらに10年たちます。青年後期です。内村航平さんです。東京オリンピック、ちょっと残念でしたね。コーチになられる道も残っていると思いますけれども。この年齢では筋肉の老化が始まります。次、40歳です。元水泳選手の田中雅美さんです。平泳ぎのメダリストです。時々テレビのレポーターで出ていられていますね。2週目です。成人期です。この方、吉田栄作さんね。ちょうど今、50歳です。目の老化など身体能力の低下が始まっています。60歳の還暦です。タレントの柴田理恵さんです。ちょうど白内障が出てきます。白内障って白く内側にはばかると書くでしょう。どんなふうに見えるか。ちょっと白っぽく見えますよね。ゆっくりゆっくり濁ります。そういう話もしてあげるといいですね。気がつかない人もたくさんいますよ。高齢者になって、玄関の上りかまちのところで転倒するのは、みんな大体近い将来白内障かもしれません。夜帰ってきて、蛍光灯や白色電球が非常にまぶしく感じます。なぜ、まぶしいかわかりますか。水晶体は、若い人は正方形できれいに並んでいます。それが紫外線で傷むと、ひもみたいにグジュグジュとなる。そのグジュグジュに光が入って乱反射するのでまぶしいのです。高齢者の方に目がまぶしくないですか？ と聞いてみてください。まぶしいと言ったら眼科に行くようアドバイスされても良いと思います。余計なお世話と怒られるのを覚悟してくださいね（笑）。この年齢の方は、いろいろ身体能力の変化や対人関係も変化します。今まで働いていた方も定年退職になります。そうすると途端に会社との関係がぷつり切れて地域に入らなければいけない環境になってきますね。この頃は、老化は目ぐらいですが、ただ腰が痛いとか膝が痛いとかいうのは出てくるかもしれません。

次です。俳優の市村正親さん。ちょうど70歳ですね。骨と耳の変化がぼちぼちあらわれる高齢期に入ります。耳の変化。骨の変化。骨は貧血と同時に起こります。どんどん骨がなくなっていくます。半年牛乳を飲んだら骨密度は戻りますよ。そういう指導をしてあげてくださいね。牛乳を嫌いな人はいないと思うのですよ。チーズがだめ、牛乳が嫌い。コマツナはいいです。たくさんカルシウムが入っています。そして次です。女優の長内実那子さん80歳です。そろそろ認知機能の変化が起こります。次は超高齢期です。タレントの犬塚弘さん90歳。この間テレビに出られて、私はもうクレイジーキャッツのことは全て忘れてましたとおっしゃいました。それは谷啓さんもない、植木等さんもない、それは忘れて当然だけれども、クレイジーキャッツのことを死んだとはおっしゃらなかったです、忘れてましたとおっしゃっていました。

この間、池袋で高齢ドライバー起こした人身事故がありました。まさか自分が踏み間違うなんてという認識が足らなかったのですね。足腰が衰えているのにわからない。歩かせたらすぐわかるのですよ。高齢者の世帯訪問をされた時、その方が外を歩かれるのを見ていたらわかるでしょう。こういう動きがあったら要注意です。道路を横断する時は必ず信号機を渡るよう言ってあげてください。かくしゃくとしてパツと歩いている人に言ったら怒られます。自尊心が高いのだからね。はい、次です。瀬戸内寂聴さん96歳です。この間がんを患われた時に「生きているのが嫌になりました」とおっしゃっていました。退院なさって、すぐ次の

年から恋愛小説「求愛」を出されていまして。次が中曽根康弘さん101歳。すばらしいご長寿です。政界のレジェンド。すばらしいですね。最後、ウルトラ高齢期。田中カ子さん116歳。先日の敬老の日に知事が市長さんと一緒に長寿のお祝いをされていまして。「もう死ぬ気がせん」とおっしゃっていました。皆さん、感情の起伏がひょっとしたら物すごく激しいのか、ぎりぎりのところでご長寿、ウルトラ高齢期になって生きていらっしゃいます。それを皆さんがしんしゃくして、上手に説得しなければいけません。もう半分死んでもいいと思っているかもしれないですね。それをこちらが理解した上で説得しなければいけませんね。それほどぎりぎりのところまで頑張っていらっしゃるといふこと。これが人の一生です。

120歳というのが人間の最大寿命と言われています。理屈はここから来ています。1回細胞分裂すると2年半ぐらいもちます。人間の細胞は大体50回分裂できる。ヘイフリック限界といひます。掛け算すると大体120回。歴史上で一番長生きされた方はフランス人のカルマンさんで123歳か124歳です。そこまで生きた方がいらっしゃいますが、当然130なんか超える人は今まで1人もいないということですね。

今度は子どもについてです。先ほど少し目の話をしました。これが、子どもが生まれた時の眼球の直径です。2センチしかありません。ただし、狭いところを通過して出てきますので、しゃがれてラグビーボールのようになっています。ここに水晶体があって光が入り網膜の手前で像を結びます。7歳ぐらいになると大人の視力になります。ちょうど網膜上で像が結べるようになってよく見えてきます。大人になると500円玉くらいになります。これが静止視力の発達です。7歳で成人に近い状態になります。それまでは近眼状態なのです。

次の図は、小学校に入ってから裸眼視力の計測結果。文部科学省の資料です。上の黒い部分が視力0.3以下ですね。だんだん学年が上がると裸眼視力が低くなってきます。仮性近視と俗に言われていますね。

次の図は子どもの横断実験です。子ども視野がどれだけ見えるかを実験しました。こちらから車が走ってきます。自動車の車両接近速度は10、20、30、40、50km/hと加速し、こちらから小学生が横断します。小学生が「これではもう横断ができない」と判断した時の接近距離を計測しデータでとり、それをプロットしました。

これは2年生と5年生のデータです。こちらも5年生。どう違いますか？ 2年生は速度に対して関係なく判断しています。「あの辺」という感じで渡っている。5年生になると、すごく頭のいい子は、速度が上がると横断できる距離がだんだん延びてくる。これは正常な判断力ですね。ところが5年生になってもまだ発育不全の子どももいます。小学校低学年と思ってください。警察のデータでも1年生から6年生へ進級するにしたがって事故はだんだん減ってくる。ところが低学年の時は死亡者が非常に多い。原因はこれですね。安全な横断ができない。これを何とかしなければならぬ。横断できるタイミングを学ばせる工夫が必要ですね。

これはチャイルドシートです。きちんと体の大きさに合わせてベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートとありますので、きちんと区別して使っていただくよう指導なさってください。

次の図は高齢者の場合です。事故増加の原因は筋肉の減退ですね。これが一番危ない。この写真を見てください。40歳のトライアスリート、トライアスロンの選手です。この白い部分は脂肪です。筋肉ばかりでほとんど脂肪がありませんね。こちらは運動嫌いの74歳の方。ほとんど全部脂肪ですね。これは70歳のトライアスロンの選手。一目瞭然。ほとんど脂肪がありませんね。皆さん、このように筋肉を維持することが重要です。1週間に1回ではだめですよ。最低週3回やってください。しかも、10回なら10回、20回なら20回を2セットか3セットぐらい。時間にして15分ぐらいだと思います。それぐらいできるでしょう。

このように太ももの筋肉は体の中で一番大きい。その一番大きい筋肉が半分以下になって



しまった。食べる量は変わっていないのに。では残りの半分は？ そう、全部脂肪なのです。脂肪に行った後どうなるか？ 余った脂肪は血液の中に入り込む。余ったブドウ糖も血液の中に入り込む。ブドウ糖が血液にいっぱい入り込んだらどうなりますか？ そう糖尿病になるのです。運動して血糖値を下げる事ができるのは全体の4～5割くらい。あとの半分の方は遺伝なのです。加齢性の疾患。脂肪、ブドウ糖が血中に溶けてきて起こる病気は、糖尿病と高血圧。筋肉の低下部を見てください。これだけ個人差があります。この点々は一人一人のデータです。全部で3,000人くらいのデータです。こんな状況で全身の筋肉量は下がっていきます。どのくらい下がるかは、先ほどの写真で見てもらったように2分の1くらい。それを覚えておいてください。2分の1をばかにしてはいけません。怖いのは転倒ですから。

これは駅前をご夫婦で歩いている動画です。おじいさんの方の歩き方が危ない。このおばあさん偉いですね。ご主人の転倒を心配して、ゆっくり一緒に歩いています。ひとまず階段を降りてやれやれと思って安心して普通に歩いたら、ご主人が置いていかれてしまった。このご主人さんの歩行速度は0.5m/秒、これくらいゆっくりです。こうなったら要注意。歩く運動をしましょう。

次の図は無信号交差点で横断者に車両が一時停止するか否かをJAFが調べた結果です。最低率だったのは栃木県の0.9%。最高率が長野県の58%。この結果をもとに栃木県ではこういうチラシを配りました。これ大変すばらしいですね。これを車のドライバーに配っていただく。

この図は筋肉減退による自転車の操作能力の低下を表した図です。縦軸が年齢で、横軸が事故原因です。高齢者では自転車の運転操作が最も多い原因です。60歳前半では道路環境ですね。道路のわずかな段差を乗り越えるのが難しいのです。真っすぐ行けず、斜めにツルツと滑ってしまう。足が衰えているから立とうと思ってても立てずに転倒。気をつけて欲しいですね。直角に渡って入ってください。歩道に直角に乗りましょう。75歳以上、スーパー高齢期に入った時には運転操作で転倒している。何が理由だと思いませんか？ さっき申し上げましたね。立て直しできないのですね。だから太ももの筋肉は鍛えないと持ちこたえられません。もうデータがはっきり示していますからトレーニングしていただくしかないのです。

次は高齢ドライバーです。残念ながら高齢ドライバーは減っていません。75歳以上の運転者による死亡事故件数です。一番高いところは460件ですね。理由は、ブレーキを踏み間違えたとハンドル操作が遅れカーブを飛び出した。そういう原因が一番多いです。

次は高齢者の歩行者の横断実験です。車と接近していますね。ドライバーから見て右側から横断する場合と左側から横断する場合があります。左側からの横断は高齢歩行者も若年歩行者もあまり変わりません。ところが右側から横断する時。ここの赤枠ですね。高齢歩行者は若年歩行者より手前で横断している。足が遅いのに。理屈からしたら行けるとしてしまおう。ということは、自身の歩行速度の低下に気づいていないということです。どうやって気づかせますか？ そこが大事なのです。

次は筋力です。筋力がどんどん落ちてても免許を返納しているのは1割だけです。残り9割のうち半数は危険なのに返納していない。だから筋トレとかをしてブレーキをちゃんと踏めるようにしてもらおう。説得と愛情しかありません。例えば買い物とか病院の通院が困るという人には代替手段を提案する。地域で使える足にはこのようなものがあるよというのをご紹介するだけで納得してくれると思います。「運転が生きがいだ」とか「車は財産だ」とか考えている人には別の観点から攻めましょう。

今度はこの動画を見てもらいましょう。筋トレと有酸素運動を3カ月実施した運動の結果です。これくらい効果があるのですね。運動しなければいけません。皆さんも含めて私も同じです。

次は年齢別の高血圧患者の推計数と糖尿病の患者数です。どうですか。年齢が上がるにつ

れて増えているでしょう。原因は筋肉の減少ですね。なくなった筋肉分だけ血中にブドウ糖があり脂肪がたまる。

次は私自身のデータです。運動の前と後で血圧はこれくらい下がります。10~20ミリ下がりました。研究所を退職した時はメタボでした。メタボでしたというか糖尿病の境界線と言われたので慌てて運動を始めました。ちょっとやると10~20、血圧が下がります。糖尿病も筋トレと有酸素運動で数値が下がります。有酸素運動というのはそういうことですからね。運動すると筋肉がブドウ糖をとってくれる。筋トレはすぐエネルギーになりますから。物すごいエネルギーだから、脂肪を分解してエネルギーに変えたら間に合わない。だから、血中にあるブドウ糖を使うのです。上手に運動してください。糖尿病がある人は先に筋トレをやって、しっかりブドウ糖をとってから脂肪をとる。糖尿病でない人は有酸素運動だけやったらいいのです。

最後ですが、活老社会の安全と書いてありますね。労働力人口は2050年までにどんどん減ってきます。では誰が働きますか？ そう女性ですね。女性は全体の75%くらいまで占めていると思います。あとは誰だと思いませんか？ そう高齢者ですね。名づけて「敬老と活老の時代へ」ということです。この図はどれくらい100歳が増えているかを示しています。ことしの9月20日にデータが出ました。今年7万人を超えました。これだけ、うなぎ登りです。100歳以上の人がこんなに増えています。もう超高齢という話ではないのです。ウルトラ高齢者化ですね。ちなみに、この7万1,238人は全体の人口に対してどれだけかということ、1,774人に1人です。そして男女の割合。圧倒的に女性ですね。私を含めて男性は本当に少数です。加齢による生存数のグラフを見てください。80歳を過ぎると半分ぐらいに減ってきていますね。ここまで生き残っている人は、先ほどの田中カ子さんですね。これを目指して頑張ってくださいね。

これが最後です。世界最速のウルトラ高齢化ですね。よく超高齢社会ってよくありますけれども違います。ウルトラ高齢社会です。大きな課題は、事故は当然ですが総合的な安全対策ですね。交通事故はもちろん交通安全対策だけではできないところがあります。老老介護、孤独死の問題、それから自殺の問題。これは交通安全ともう1つ別の領域とがリンクをしないといけないということです。総合というのは一緒になって連携し、先ほどの地域包括支援センターと一緒に免許返納を進めるような事をしていかないと減らないと思うのです。インテグリティ。意味は積分で足し算ということです。足し算の別の意味が出てくるのですが正直という意味です。うそをついていない。これからの政策の正直な分野、壁をつくって、そこはあなたの担当という話では困るのです。一緒になってやらないといけません。総合というか統合というか、これがこれから大事になるのではないかと思います。

時間になりました。以上で私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## 講演

### 「自転車の事故防止のために」

日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

皆さん こんにちは石井です。私の話は皆さんが日ごろ活動されている指導内容に少しでもプラスになるものがあればと思ひ話をさせていただきます。

では、まず18ページの「事前学習」から進めていきたいと思ひます。問1、これは開会式で内閣府の方からも話がありましたけれども、現在は第10次の基本計画ですね。日本では5年ごとに計画を立て、数値目標を設定してやっているわけです。正解と思う一つに丸をお願いします。問2は、自転車安全利用五則です。いつ通達を出したのか。例えばヨーロッパでは、100年前から自転車の文化があるといわれています。自転車道がすでに整備されている国もいっぱいあります。では、日本が自転車について真剣に考え始めたのはいつ頃からか。丸をつけてください。問3、路側帯の問題です。問4、危険運転は何歳以上が該当するか。問5、自転車は歩行者の仲間か、バイクの仲間か、自動車の仲間か、1つ選んでください。問6、歩道上の自転車走行。おそらく皆さんは自転車安全利用五則を説明する中でこれが一番苦労されているのではないかと思います。道路のどこを走るか、きちんと規則で決まっています。問7、自転車のライトの問題です。ライトは非常に重要ですので、繰り返し説明してあげる必要があります。ライトには大きく2つの意味があると考えます。問8、自転車事故の賠償の問題です。これは高校生の事故でしたが判例がありました。問9、道交法違反。これは中学3年生や高校生にぜひお話していただきたいのです。例えば高校生の場合、将来、自衛隊に入って活躍したい、警察官になりたい、教員になりたい、いろいろな夢を持って学校生活をしています。ところが、交通事故、交通違反によってなりたい資格が取得できない場合があるのです。自分が抱いている人生設計が一瞬にして崩れることがあるということをお話してもらいたいと思ひます。問10、TSマーク。私が持っているこれが実物です。これも後で話します。問11、ハインリッヒの法則。これをご存じでない方も多いと思ひます。これは交通安全の話ではなく、例えば会社で事故が起きた場合、重大な事故の発生と小さな事故やヒヤリとした数の割合は一定の関係がある。その法則を発見した人です。以上が事前学習です。

それでは、20ページの本題に入ります。今日はこのような6つの内容について話をします。最後に資料を掲載しました。ぜひ皆さん活用していただきたいと思っております。

では、まず交通事故の状況から話します。皆さんもご存じのように、交通事故の統計は年度ではなく年です。だから、1月1日から12月31日で締め切ります。その1年間の内容が通常1月5日前後の新聞またはテレビに出ます。発生件数、死者数、負傷者数とも前年比マイナスとなっています。それでも52万もの人が負傷して苦しんでいる。やはり皆さんの活躍が大いに期待されるころだと思ひます。この図では高齢者の「歩行中」のところを見てください。死者数の桁が違いますね。非常に多いです。残念ながらこういう状況です。

では、日本では自転車についてどんな取り組みをされているのかということをお話します。まず「第10次交通安全基本計画」です。これは前に話しましたように、陸上、海上、航空での交通安全対策、日本では5年計画で数値目標を出し、その目標に向かって頑張っているわけです。道路交通が発表されたのは第10次ですから、日本は50年前から実施しているのです。すばらしい国だと思ひます。その中で、問1は2,500人以下にするというのが答えです。ちょうど再来年の3月が第11次の基本計画が発表されます。その時にこの結果が出ますね。第

10次のスタート時に死者数は4,000人いたのです。それが去年を見ると3,000人になった。あと1年半で果たして2,500人以下になるかどうか、ぜひ注目して見てもらいたいと思います。この文章中に「世界一安全な」というワードがあります。これがキーポイントです。2,500人以下にすると日本は世界一安全な国になるのです。なぜか。根拠は次のこの表です。2016年のデータで少し古いのですが、日本は今ここです。日本より死者数が低いのがノルウェー、スイス、スウェーデン、イギリス、オランダ、デンマーク。北欧の国は交通安全教育を非常に熱心にやっているわけです。実は2018年（平成30年）の新聞報道で日本は0.12人少ないという発表がありました。それを当てはめると矢印のところになります。今後、皆さんの努力のおかげでさらに死者数は減っていきたくらうと思っております。

さて、次は「自転車安全利用五則」です。この警察庁が出した「自転車の安全利用の促進について」の通知文の中段に「なお、自転車の通行ルールの広報啓発に当たっては、別添の自転車安全利用五則を活用し・・・」とあり、次のページに五則についての内容が掲載されていました。これで自転車事故を減らしていこうと通達が出たのです。これが平成19年の7月ですから11年前。日本が本気になって自転車事故を減らそうと動き出したのが11年前ということになります。この通達に関連して道路交通法を改正したのが平成20年6月になります。ですから、日本が自転車について真剣に取り組み始めたのが約10年前ですね。路側帯の通行方法についてが平成25年。危険行為についてが平成27年です。

この図は歩行者と自転車の接触事故数の推移です。皆さんこの線を見てください。五則通達後は減ってきています。本当にすばらしいことだと思っております。

次は「路側帯」についてです。路側帯というのは歩道がない道路の白い線の内側、これが路側帯です。一般的にこの路側帯が多いですね。しかし、この真ん中のように点線を含めた路側帯もたまにあります。皆さんは見たことがありますか。また、このように2本線の路側帯もあるのですが、私はまだ見たことがありません。次の写真です。この白い線は路側帯ではありません。なぜなら歩道があるからです。これは車道外側線といい、この線の外側に近づくと路肩となり危険であると注意喚起する線です。こちらの写真は路側帯ですね。路側帯の幅が広がったり短かったり、片方だったり、いろいろな路側帯があります。多分皆さんも地元で見ていると思いますね。今までは、この図のようにきれいに色分けされている路側帯は少なかったのですが、最近ではこのようにカラー塗装しているところが非常に多くなってきました。次は路側帯の通行方法です。今まで路側帯の中では相互通行でした。ですから自転車同士、回避する時は車道側に膨らんでしまい非常に危険でした。なので平成25年の12月道交法が改正され路側帯の中でも左側走行のみとなったのです。もちろん罰則もあります。

次に「自転車運転者講習制度」です。道交法の改正は平成27年6月ですが受講対象行為は14項目あります。ほとんどの違反が含まれていると考えるべきです。さて、この中で違反行為が一番多かったのは何番だと思いませんか。そうです。信号無視が一番多かったのですね。さて、対象年齢は14歳以上です。皆さんが中学生や高校生に話をする時にも「皆さんも対象なのだ」ということを話して欲しいと思います。

次は、最近の自転車に関する情報です。愛媛県では県立高校の全ての自転車通学の生徒にヘルメットの着用を義務化したのです。これは全国でこの県だけなのです。すばらしいことですね。このように朝日新聞にも記事で紹介されています。ここに、なぜ全高校生にヘルメットを与えたのか。その後どうだったのかが出ています。この中に12件の自転車事故があったが、死亡事故に至っていない。原因は全員がヘルメットを着用していたおかげで死亡事故に至らなかったからなのです。ヘルメットのすばらしい効果があったのです。これは愛媛県立今治工業高校のパンフレットです。私はこの写真が大好きでいつも必ず紹介しています。この言葉「いつもの帰り道、無事帰るのが当たり前」と書いてあります。私が現職で生徒指導をしていた時、生徒にヘルメットを着用するよう指導していましたが、髪型が乱れるから

と絶対にかぶらなかつた。ヘルメット着用は難しいと思いました。ですから愛媛県は素晴らしいです。では、なぜここまでできたのか。実は協議の際、校長会とPTA関係、警察だけでなく、生徒の代表も参加させたのです。1年間かけて話し合い、結論を出したのです。結果、生徒の希望も取り入れヘルメットのデザインも7種類から選べるようにしたのです。詳しくは、この朝日新聞の記事内容を後で読んでください。記事では、自転車事故で亡くなった高校生の親御さんが高校に行って「命の授業」をしている。本当に素晴らしいことだと思います。

次に自転車の保険についてです。自転車保険の加入を義務化している府県ですね。神奈川県の大和市では小学五年生全員に市が全額負担して自転車保険に加入させました。全国初です。次にこれは今年の6月の新聞記事ですが、歩行者とバイクの事故でも、信号無視をした歩行者の方に過失があると判断された事例です。歩行者は弱者だと言われていますが状況によっては加害者になるということです。次は、自転車の基本的ルールについてです。ここは一応認識しておいてください。自転車には「普通自転車」という定義があるということ。マウンテンバイクとかは入りません。ぜひ「自転車は軽車両」であることをこの表を使って説明してあげてください。また自転車は「運転する」という意識付けも持たせてあげてください。

「自転車安全利用五則」の内容について説明します。五則の1、自転車は車道が原則。歩道が例外。例外事項はこの3つ。これ以外は全てが原則です。五則の2、自転車は車道の左側を通行。右側は危険ですから通行しません。五則の3、歩道上ではどこを通行するか。車道寄りを徐行が正解です。この内容の説明ですが、ぜひこの図を使って上手に説明してください。「車道寄り」には3つのパターンがあります。ぜひこのパターン図を活用して説明していただきたいと思います。では、歩道上で対抗自転車がきたらどう回避するか。この場合「相手を右に見て回避」するようにしてください。現在、歩道もこの写真のように歩行者と自転車が分けられたところも増えてきました。ここは東京の三鷹市です。ここは静岡県の沼津市ですね。結論として歩道上では3つの留意点があるわけです。まず、第一に歩行者が優先である。二番目に車道側を走行すること。三番目は徐行すること。徐行というのはすぐ止まれる速度で走行すること。

五則の4、安全ルールを守る。この中で問題なのは夜間のライト点灯です。理由は2つあります。1つは自分の前方を安全に照らすこと。前方に障害物がないかどうかです。2つ目は自分の存在を相手に知らせることです。例えば神奈川県横浜で起きた自転車事故です。高校2年生の女の子が夜の7時15分、真っ暗な道路を無灯火の自転車に乗って、携帯電話をしながら片手運転をしていました。そして前を歩いていた看護師の57歳の女性にぶつかってしまった。その女性は腰と首を痛めて看護師の仕事ができなくなりました。生活に困った女性は、その高校生と親御さんを相手に民事訴訟をおこし横浜地裁に訴えました。結果、裁判所では5,000万円の損害賠償命令の判決となったのです。もしこの高校生がライトをつけていたら皆さんどうだったと思いますか。事故は回避できたかもしれません。なぜなら看護師の女性は、後方からのライトで自転車が来たかと判断できたかもしれないからです。それだけ自転車のライトは重要だということを説明していただきたいと思います。

それから、次の「信号の意味」です。幼稚園や小学校の子どもたちにぜひ話をしてもらいたい。青信号の意味は進むことができるという意味。進めではないという事です。次に一時停止です。若い人たちは一時停止をほとんど無視している場合が非常に多いです。ある中学校で実際にあった話です。中学3年生の男子が帰りのホームルームで担任の先生から「止まれ」の標識を黒板に大きく描いて、この標識の先は非常に危険だとほんの10秒か15秒話をしました。その話を聞いた帰り道、普段一時停止しない場所で担任の先生の言葉を思い出した、その生徒は一時停止をしたそうです。そこを大型トラックがいきなりビュンと生徒の前を通

り過ぎたそうです。これは本当の話です。ぜひ子どもたちに聞かせてあげてください。次に自転車の右折方法です。自転車は「二段階右折」です。車の右折のように1回で曲がると大変危険なので禁止されています。車両用信号機で右折矢印の信号に自転車は従うことができません。次の写真です。国会議事堂の前の横断歩道の写真です。自転車横断帯がありませんね。今は全国で徐々に減少しています。原因は車のドライバーからは自転車が左折したと勘違いし、巻き込み事故が発生してしまうからなのです。これはスタントマンによる巻き込み事故を再現した映像です。よく見てください。一時停止を怠ると非常に危険だということがよくわかる映像ですね。

五則の5、ヘルメットの着用です。現在、努力義務なので罰則はありません。当然のことですが頭部を守るのに大変効果があります。傘さし運転、携帯電話、イヤホンでの使用運転禁止。これはどの県でも条例によって禁止しています。

続いて、自転車事故で問われる責任についてです。民事上でも自動車事故での賠償と全く同じだということ。この高校生による事故の判決でも9,000万円台の賠償金となりました。刑事上での責任ではなりたい職業になれない場合があるということです。高校3年生、これから夢を持って自分の人生を生きようと思っている時、罰則を受けることによって資格が取得できなくなる、免許が持てないことがあるということです。例えば教員の場合には禁錮刑を受けた場合には教員免許は持てません。また交通事故の被害者や加害者になった場合は必ずその場で警察、学校、保護者に連絡することが重要です。生徒はその場から早く離れたいという意識が働きます。怪我をして連絡もせず学校に行って、結局具合が悪くなったというケースが多くあります。必ず警察などに連絡するよう指導してください。

次は保険についてです。皆さんはこのT Sマークご存知ですか。これが実物です。少し前までは賠償保険金が5,000万だったのが今では1億円になりました。この保険のいいところは自転車屋さんで自転車を整備してもらったとこの保険がついてくるということです。整備費用は大体1,500円ぐらいです。人ではなく自転車自体が対象なので家族でも大丈夫です。期間は1年間です。非常にいい保険だと思います。今は自転車でも車と同じ様に保険に入る時代になったということです。ぜひ子どもたちにも説明してあげてください。

次がインリッヒの法則です。これは初めにも少し話しましたが、死亡事故など重大事故が1件起こるには、その下の接触、転倒などの小さい事故が29件。さらに、その下にはうっかりやヒヤッとした事例が300件起きています。重大事故1件が起こるのは、このような小さな事故が29件、ヒヤッとした体験が300件起こることですから、このヒヤッしたりハッしたりする体験を150にすれば重大事故は0.5に減るのです。日常の心掛けでヒヤリ・ハッと体験を少なくすることがとても重要なのですね。さらに事故防止のためには反射材ですね。皆さんも活用されていると思います。皆さんも反射材を配るだけでなく、必ずその場で着けていると思います。着けてくださいねと言って配っても必ず神棚に行ってしまうですね。

それから内輪差による巻き込みです。特に前輪と後輪の幅があるということは十分にご存じだと思います。これは千葉県であった事故です。高校3年生の10月に起きた事故です。この男子高校生は朝8時、登校中の交差点で信号待ちをしていた。後方のトラックに気づいていたかどうかわかりません。青信号になって横断したらトラックに巻き込まれてしまった。即死だったようです。とても痛々しい事故でした。結局、もしかしてという危険予測、その意識を持たせることが必要だと思います。そして携帯電話を見ての事故。東京都で実際にあった事故です。女子大学生が夜11時、自転車運転中、携帯を見て、イヤホンで音楽を聞きながら赤信号の横断歩道に進入してきました。そこで大型トラックと衝突した死亡事故です。要するに、赤信号が見えてはいるが認識していない「非注意性盲」という状態です。ぜひこの話もしていただきたいと思います。

次の「安全教育の5つの方法原理」。ご存じの方はいないかもしれませんが。吉田瑩一郎先生という方がおりました。文部科学省の体育官を退官後、日本体育大学の教授になった先生です。この先生が提唱されたのが「安全教育の5つの方法原理」なのです。一回性の原理とは、命は一つ。人生は一度だけ。安全教育とはそういう教育だということです。危険予測の原理とは、先ほどの千葉県の高校生の事故もそうでしたが「もしかして」という危険を予測する意識を持たせること。自己統制の原理とは自己抑制、自分をコントロールすること。生活習慣確立の原理とは規則正しい、毎日の生活リズムが重要である事。私が校長の時、たばこを吸って停学になった生徒がいました。私はこの生徒に「昨夜は何時に寝た。今朝は何時に起きた」と尋ねましたら普通ではない、めちゃくちゃな生活をしているのです。結局、それが非行につながり、ひいては交通事故に遭うのです。規則正しい、きちんとした家庭のリズムをつくることは非常に重要です。母親の力は非常に重要です。「交通安全は家庭から」という立派なスローガンがありますね。あのスローガンは本当に見事だと私は思います。最後に地域性の原理。私が住んで知るところは地方なので夜になるとあたりは真っ暗になります。そういうところに住む人と、夜でも明るい都会住まいの人では環境が全く違うということです。ですから全てを混同して話すのはためなのです。

私の持ち時間もあと少しなので、最後に「リンゴの木」の話をしたいと思います。私が教頭時代ですが夜の9時半ごろ消防署から私の家に電話がかかってきました。私の高校の2年生の男子が運転しているバイクが事故を起こし、男子が重傷、後ろに乗っていた女子が即死したという内容なのです。今は個人情報がありますから校外への持ち出しは禁止されていますが、当時は生徒名簿を自宅の電話近くに保管していました。私はすぐに校長、学年主任、生徒指導教諭など五、六人の先生方に連絡して学校の校長室に集合してもらいました。担任の先生は病院を回ってきたということで涙を流しながら最後に校長室に入ってきました。死亡した女の子の担任の話では、今まで一回も遅刻や欠席もない、非常に真面目な明るい子だったと報告がありました。翌日、学校では全校集会を開き、事故の状況を説明してから全員で黙祷を捧げました。その場で泣き崩れる、仲の良い女の子もいました。その後、有志を集め、担任と一緒に葬式に行きました。母親はとても立ち上がってられない状態でした。三人姉妹の末っ子で一番かわいがって育てていたのです。2人のお姉さんが母親を支えながら何とか歩いていた。そういう状況でした。それから1週間後、その子の父親から私に電話があり、お願いごとがあるので伺いたいという連絡がありました。私は、もしかして学校側の対応に何かまずい点があったのではないかと、何を言われるのだろうか、私はそんな気持ちでご両親を学校にお迎えしました。父親は、「この度は娘が大変お世話になりました。あの子はこの学校が大好きで、今日はこんなことがあった、こういうことを勉強したと毎日、学校のことを話してくれる娘でした。それで、校長先生にお願いがあります。あの子の好きだったこの学校の敷地内にりんごの木を植えさせていただきたい」という依頼の話だったのです。そして全く同じ木を自分の庭にも植えるとのことでした。なぜりんごの木なのか尋ねたところ「時期が来れば、花が咲いて実がなる。ぜひりんごの木にしたい」ということなのです。学校側でも否ということはありませんので1カ月後、クラスの生徒と両親、家族が涙ながらに木の苗を2本植えました。なぜ2本かということと枯れる可能性があるからです。この木が成長し花が咲き、実がなるたび、必ず亡くなった女子生徒を思い出しました。もう決して悲惨は事故だけは起こさせたくないと胸に誓ったものです。現在、その木は大きく成長し、毎年実がなっていると聞いています。

最後になりますが、皆さんが今、されている活動は命にかかわる活動だと思うのです。交通安全というのはそういうことだと思います。本当に皆さんは大変重要で大切な活動に毎日尽力されていると私は思います。これからも体に十分気をつけて、健康に留意してご活躍いただきたいと思います。心からエールを送って終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

## 【2日目】

### グループ討議の結果

グループ名	グループ 高齢歩行者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	高齢者が事故に遭わないために！
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング(体力向上)</li> <li>・家庭訪問</li> <li>・寿学級(公民館単位 反射神経)</li> <li>・敬老会での広報</li> <li>・交通ルールや反射材の見え方(安全協会)</li> <li>・「明日は私達が高齢者」</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発品を配布しても活用してもらえない(しまわれてしまう)</li> <li>・車を運転させたくない</li> <li>・横断が自分勝手</li> <li>・イベントに参加してくれない</li> <li>・朝のゴミ出し時に事故にあう</li> <li>・後継者不足</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反射材の見え方や効果を実験で見せる</li> <li>・家庭訪問</li> <li>・ドライバーが歩行高齢者に注意してもらう</li> <li>・マスコットコンクールを開催</li> <li>・小学生向け交通安全マナー・自転車教室</li> <li>・交通安全出前教室(ルール・視野・歩行速度)</li> <li>・アドバイザー事務局で活動しやすい</li> </ul>

グループ名	グループ 高齢運転者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	免許返納の次善策
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無期限乗車券の発行(坂井市)</li> <li>・老人会として呼びかけ</li> <li>・市内の巡回バスの充実 郊外との差がある(金沢市)</li> <li>・企業からの割引券の発行</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスがあるが山間部は特にバス停まで距離がある、一日の本数が少ない、など不便で利用しにくい。結果、赤字</li> <li>・タクシー割引券も限度があり、長期的にみて使いづらい</li> <li>・「免許返納 = 人間終わり」と捉えかねない</li> <li>・免許を返納させる一方で高齢者向け免許を早く作って欲しい</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスは隣接する市町村と連携して欲しいと行政に提案する。</li> <li>・私達ボランティアが唯一できる啓発活動を理解してもらうため、個々の意識付けが大切</li> </ul>



グループ名	グループ シートベルト・チャイルドシートの啓発活動における課題と対応
討議テーマ	チャイルドシートと後部座席のシートベルトについて
活動状況	<p>チャイルドシート取付け状況(JAF)</p> <p>全体:70.5% 1歳未満:9割 1~4歳:72% 5歳~:48%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が上がると取付け率が下がる</li> <li>・「正しい取付け」も48%で半数以下</li> <li>・事故致死率 不使用が適正使用の13倍</li> <li>・園児、反射材や高齢者向けの活動はするが「チャイルドシート」活動はあまりしていない</li> <li>・「シートベルトは警察担当」なのであまり取り組まない</li> <li>・全体的にチャイルドシートの啓発活動はあまり実施していない</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と幼児への意識付け 親への注意喚起が必要</li> <li>・着用率が近年大幅増。子ども数の増加にチャイルドシートの準備が追い付いていない</li> <li>・警察の取り締まりがもう少し必要かも</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな啓発活動時にシートベルト・チャイルドシートも行う</li> <li>・実家への帰省時期にレンタルや貸出の仕組みが必要(警察や自治体)</li> <li>・クリスマス会、保護者会で親子に啓発する</li> <li>・PTA役員に活動に参加してもらう</li> <li>・紙芝居や寸劇で子どもに興味をわかせる</li> </ul>

グループ名	グループ 家庭と地域の交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	交通安全とは家庭と地域から
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の見守り</li> <li>・小学校で親子交通安全教室</li> <li>・町内会で危険な通学路の点検(年1回)</li> <li>・家庭内での声掛け</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室や町内での会合は年に一度しかない</li> <li>・交通安全の寸劇や紙芝居はわかりやすく面白い</li> <li>・交通安全は命を守る活動</li> <li>・自転車専門の講習会が必要だと思う</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけ運動によって目をかけてもらっている</li> <li>・商店街、スーパー等をパトカーで巡回してもらう</li> <li>・子どもがいる家庭では飛び出し注意のものを設置</li> <li>・子どもの制作物を家庭に飾る(意識が高まる)</li> <li>・交通事故は将来の夢を奪うを伝える</li> </ul>

## 講評 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

本日のグループ討議、お疲れさまでした。そして結果発表、本当に素晴らしい発表をしていただきました。講評の時間なので少し気が付いた点を含め、話をさせていただきたいと思います。まず一日目。溝端先生から高齢者の動機づけについての講義がありました。大変参考になるデータや「生涯一日時計」という興味深い説明など本当にためになる話でしたね。そして高齢者の方には「気づかせる」こと。上から目線で接するのではなく、きちんと○○さんと呼び失礼のない対応をすることが重要だという話がありました。

次に、自転車について私の方から話をさせていただきました。自転車は大変身近なものです。ルールが少しわかりづらい点があります。皆さんが現場で説明する時は、ぜひこの資料を活用していただきながら話をしてもらいたいと思います。特に保険の問題。賠償金額をみても車と同額の賠償金が発生しています。もう自転車についても保険に入る時代なんだということ。そして刑事上では罰則の対象になり、なりたいたい職業にもなれない、資格が持てない、将来の夢にも大きく影響するものなのだとすることを皆さんからも子どもたちに説明していただきたいです。

そして今日は活動事例発表がありました。福井県坂井市の母の会の皆さんによる寸劇でした。「免許返納」をキーワードにした本当に素晴らしい内容の寸劇でした。「免許返納」は今、全国的にも本当に深刻な問題です。都市部、地方など地域間格差もあり簡単に解決できる問題ではありません。寸劇の内容にもあったとおり、家族内で十分に話し合い、返納後の心配を取り除けるような環境を行政などが作っていくのが理想的だと思いました。

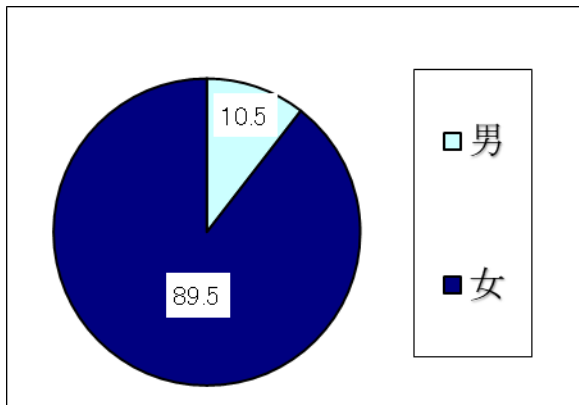
最後にグループ討議ですね。グループでは「高齢歩行者」の対策。高齢者宅への訪問時、や会合への訪問時、反射材はそのまま渡すのではなく、その場で靴に貼ったり、衣類に付けてあげることが大切ですね。渡すだけではしまっけてしまいますから。また反射材の実験は視覚的に大変効果があります。こんなに小さな反射材でも、きちんとドライバーからも認識され命を守っているのかがとてもよくわかります。ぜひこれからも続けていって欲しいと思います。次にグループは「高齢運転者」ですね。先ほどの寸劇とテーマは同じですね。バスやタクシーの割引券だけでは期限もあり、どうしても限界がある。そこで地域間と連携したコミュニティバスを運行するという内容は素晴らしい考えだと思いました。また今は自宅周辺の運転のみや昼間のみ運転など、「条件付き免許」も検討されてきています。今後気を付けていきたいものです。グループは「チャイルドシートと後部座席のシートベルト」ですね。チャイルドシートも以前より簡単に装着できる商品や乳幼児兼用のタイプやなど、より使いやすい商品が出てきました。装着率も最近では上がってきましたが、まだきちんと取り付けていない事例もあります。クリスマス会や保護会など親がたくさん参加する時に一層の啓発が必要だと思います。後部座席の着用も高速道路では義務化されましたが一般道ではまだ装着率は低いようです。警察や協会など他団体とも相談して啓発していくのが大切だと思います。グループは「家庭と地域」でした。ここでは皆さんが所属する母の会のスローガン「交通安全は家庭から」が私は一番大事なのではないでしょうか。家族で食事している時、交通事故のニュースが報道された。その時一言でいいのです。「交通事故があったのね。みんなも付けて」。これが大事ですね。こういう話題を日ごろ、継続して言うことが大

きな効果を生むと私は思います。私は本当にすばらしいスローガンだと思います。また「声かけ運動」や手作りグッズなど母の会の皆さんでなければできない活動や運動をこれからも続けていただきたいと思います。

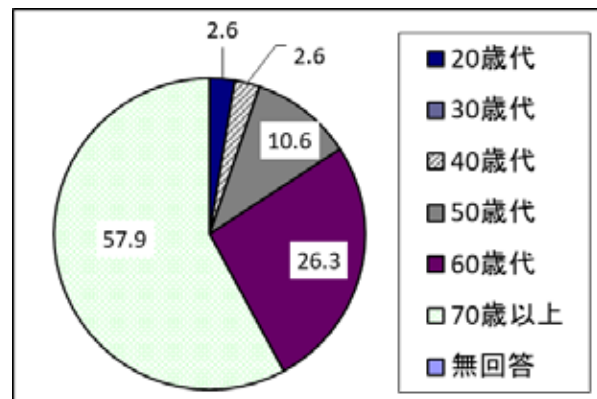
最後になりますが、皆さんが活動されていることは命にかかわることで非常に大切なことです。もう一度、自身で自覚をしていただき誇りをもっていただきたいと思います。本当に心から皆さんにエールを送って私の講評を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

### 3. アンケート集計結果

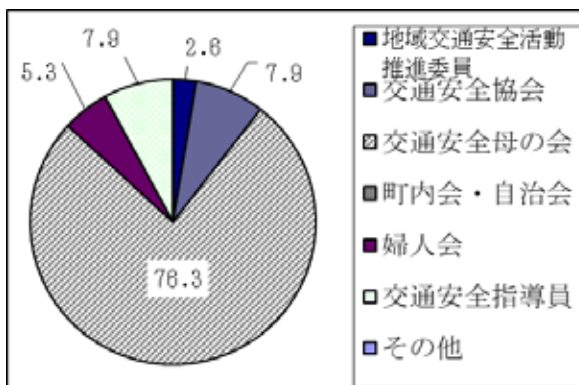
#### 1. 性別



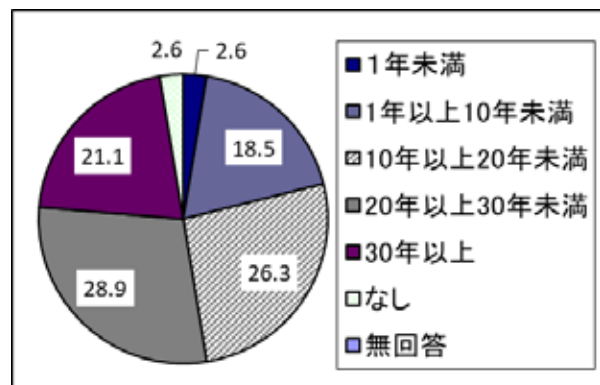
#### 2. 年齢



#### 3. 所属団体

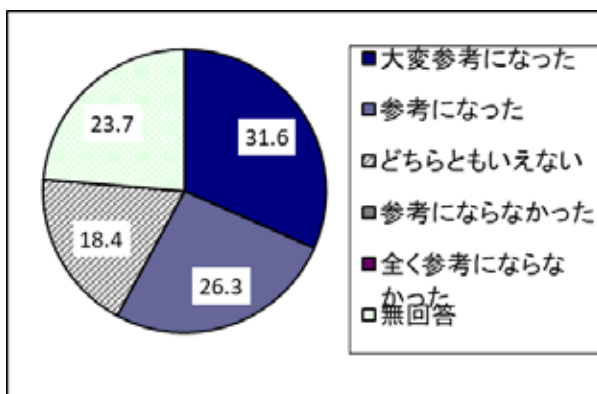


#### 4. 活動年数

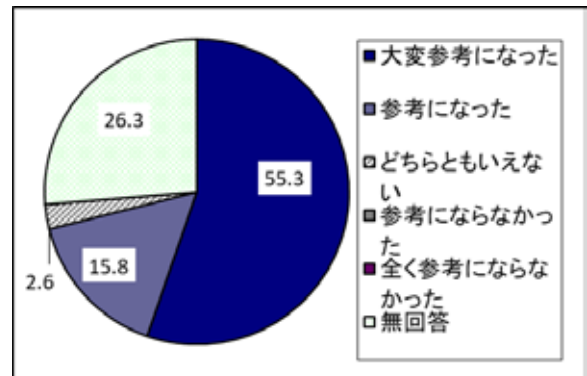


#### 5. 評価

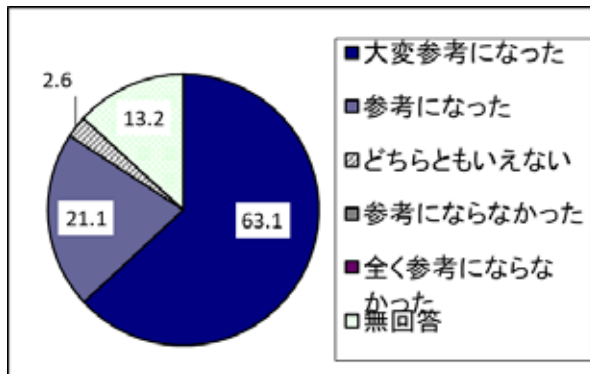
[講演 講師：溝端 光雄 先生]



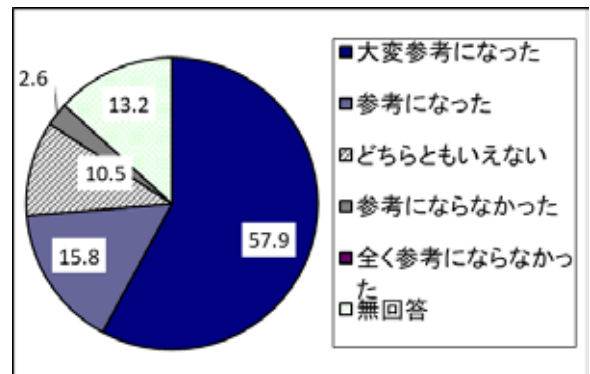
[講演 講師：石井 征之 先生]



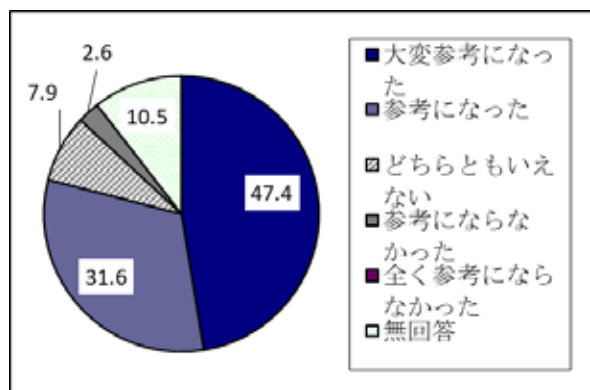
6. 活動事例発表



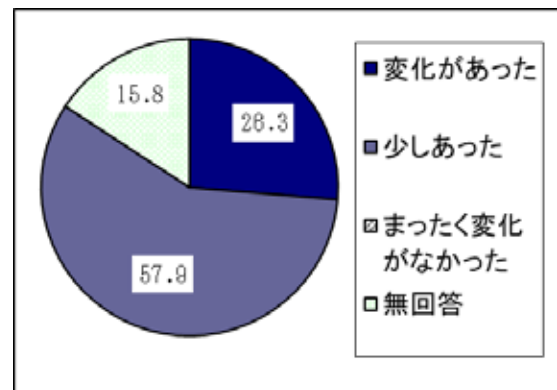
7. グループ討議



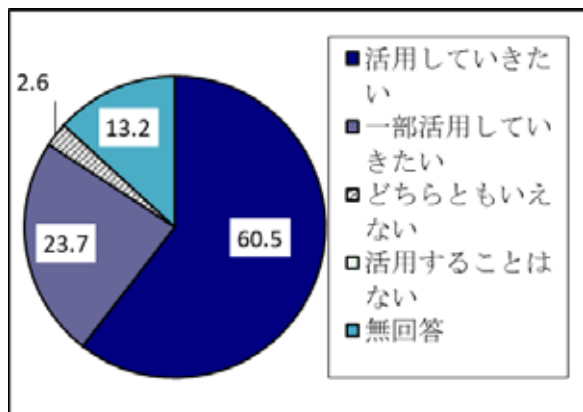
8. 総合評価（講習会全体として）



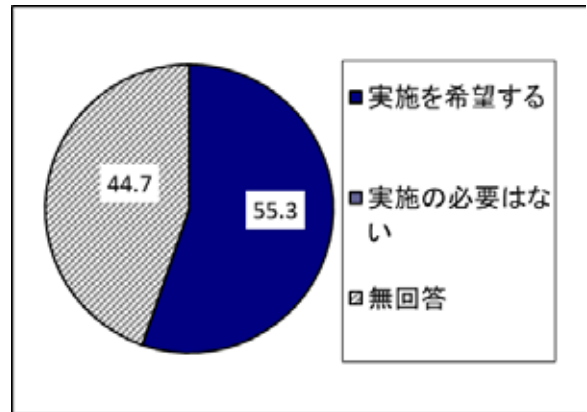
9. 講習会参加による意識の変化



10. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



## 設問6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 自転車に関する講習会(3)
- ・ ボランティア活動の方法
- ・ スクールゾーン(学校周辺の規制)の拡張など
- ・ 人前で上手に話せるセミナー
- ・ 活動の仲間をどのように増やしていけばよいか
- ・ 子どもと保護者の親子交通安全教室
- ・ 自転車事故対策
- ・ 楽しく参加できた。今日は参加して良かったと思えるような内容
- ・ 講習会に多くの高齢者が参加してもらえるには
- ・ チャイルドシートについて

## 設問9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 他県の活動内容を知る(2)
- ・ 県や市、地域での実技指導も時々あっても良いのでは。今回の活動発表も大変参考になった
- ・ 学校や公民館を通じて地域の人達と話し合う機会が増えると良いと思う
- ・ 地域で細やかに会議をたくさんやるべき
- ・ 自転車専門の講習会が必要
- ・ テレビ等のメディアで紹介して欲しい
- ・ スタントマンによる模範実技
- ・ 大変だがより緻密に現場で講習会を開いて欲しい
- ・ 事故現場を視察する
- ・ 石川県では婦人会研究大会に母の会の研修を取り入れ、県警や県の講義、各地区の取り組み発表で実施している
- ・ 警察、安協、他県の交通安全グループとの交流や意見交換等

## 設問10. 講師への質問・意見等

溝端光雄先生

- ・ 詳細な説明、豊富な知識と経験を聴かせていただき感謝(2)
- ・ 楽しいパフォーマンスで内容が濃かった
- ・ 免許返納を考えている高齢者の立場を尊重し声掛けする実践的方法を楽しく学べた

石井征之先生

- ・ 大変わかりやすく整理された話と資料だったので疑問点が解決した(2)
- ・ 心のこもった指導の詳細で再度聞きたい
- ・ 安全指導をする上でのわかりやすい方法や実際に起きた事件事例など大変勉強になった

## 設問 12. その他の意見・要望

- ・ 活動発表がとても面白くわかりやすい内容だった(4)
- ・ 他県との情報交換が本当に良かった。重要性をあらためて感じた(4)
- ・ 配布冊子の字を大きくして欲しい(3)
- ・ 自転車のルールを周知徹底する
- ・ 今回の研修は今までで一番有意義だった。ありがとうございました
- ・ グループ討議で特定の人の方がしゃべりすぎの感があった。テーマは2つあっても良かった
- ・ チャイルドシートをきちんと閉めると楽しい音楽が鳴るとかてんとう虫の絵になるなど楽しい商品を開発して欲しい。
- ・ 園の行事に参加する保護者にチャイルドシートの重要性をアピールしていきたい
- ・ 他県の方と話し合う機会をもてて良かった
- ・ 活動は自前だと皆さんから話を伺い、しっかり報酬を支払いより活動に力を入れてもらいたいと感じた
- ・ 開催県や複数の活動事例があると良いと思う
- ・ グループ討議は別々の場所にして欲しい
- ・ 交通安全啓発グッズの発表会やお披露目会があっても良いと思う
- ・ 開催県以外の行政の方も一緒に講習を受ければ参加者の意見が聞けて良いと思う

#### 4 . 記録写真



開会挨拶（内閣府 中島参事官補佐）



講演 溝端光雄先生



講演 石井征之先生



活動事例発表



グループ別討議



討議発表